

座 談 会

幻覚薬をめぐって



(大麻草)

(出席者) 原 三 郎
 松 井 好 夫
 徳 田 良 仁
 小 林 甚 一
 植 草 甚 一
 (司 会) 椿 八 郎

昭和46年2月3日・於原宿南国酒家

幻覚薬の種類と歴史

原 みなさんおいいがしい中をありがとうございまして。

私は戦前から、日本で中枢神経の薬理、精神薬理というような言葉を最初に言い出したんで、その辺では一番古いですが、この幻覚の研究も戦前はさうとう前からです。みな

さん、在りあげておりますけれど、医学会でもなんでもありませんので、これを中心とした広い立場から、ご自由に選んでいただきますと思います。

椿 幻覚薬は、はなはだ広い範囲にわたって問題を含んでおるので、薬理学はもちろん精神病学も、文学、美術、音楽というように広い範囲にまたがっております。そういう

興味は当然われわれの「医療薬理」が取りあがるべきだろうと思っております。

それです。幻覚薬の種類、そこから始めていと思いますが、原先生のこと……。

原 幻覚薬を狭く考えると、やはりメスカリンから出てLSD、ブシロンビン、あるいはサイロサイピンでしょう。そんなのが中心だと思っております。

糖 マリファアナも。

原 ええ、広くいうと、モルヒネでもカンナビノール、さらにブルボカブニン、それからハルミン、その他いくつでもあり、これらはとりやうで麻薬とほとんど同じような扱いを受けているが本質的にはまるで違うんです。

小林 いま糖先生おっしゃったマリファナ(テトラヒドロカンナビノール)だとか、最近ですと、ダイトラン、セルニール、PMT、DET、あるいはSTPなどがぞくぞく出てまいりました。しかし実際上、文学、芸術に現れているものだから、使われた記録があるというものとなると、そういう新しいものはまだ含まれませんから、だいたい原先生おっしゃった範囲ぐらいが実際上には問題になるんじゃないでしょうか。

糖 幻覚薬の歴史は古いのですか？

小林 装束の幻覚薬の中では、一番古いのがメスカリンじゃないかと思えます。宗教上の、例えば神を信じないなんていう人がいたときに、——あれはメキシコの、いまでいうとインデアンですけど、土着民が昔に……。

糖 それは何年ごろですか。

小林 ずいぶん古いです。だいたい十六世

に行く。「こういうおもしろいところならおれも行ってみよう」というのでブームがおきたわけですね。そのブームにひきこまれた一人にフランスの精神科の医者がおりまして、モロー・ドゥ・トワールという医者なんです。彼が実際に行って見てきてそれを持ち帰ってフランスの医学生の実習に使ったわけですね。それを飲まして患者が実際幻覚の見えているところを学生に問診なんかさせて精神科と比べたんですね。それが結局文明国ではつきり幻覚薬として、つまり薬として使った、公認というかたしかに幻覚が出るという目的の認めるところになったのは、それが最初です。

原 それからきのこの類とすれば、やはりブシロシビン、これがメキシコを中心にして中米あたりで、そうとう古い宗教儀式で用いた。堀部真広君が初めてやって、日本ではそれだけだと思います。

小林 ただ、あれは、非常に長い間神祕のベールに囲まれて、絶対門外不出で、まじない使の家だけに秘伝として伝わっていた。それが終戦後になってからワツソンというのがのり込んで行って探検した。結局たのんで持ち帰って、それをサンドの Hoffman が分析して、はじめてその主成分が、原先生のおし

紀中ごろにはもう記録が残っておりまして。そのころに土着民の宗教儀式のときに造反隊というか無宗教派の若者をつれてきて「おまえ、そんなに信じないならこれをのめ」ってポタンを——ポタンってのはサボタンの先っちょを切って干してある。ま、かんびようの干したようなもんだと思うんですけど——そ



(小林 昭氏)

れを噛ますんですね。そうすると幻覚がおきてくる。

糖 その中にメスカリンも入っているんですね。

小林 きのこもあるんです。あれはトトナナカトル(神の肉)というきこで、それも同じような目的に使われて、そうとう古いです。これは歴史が二系統ありまして、一つはメスカリンと同じようにメキシコなんです。が、他の一つは北欧のバイキングの連中がシ

ゃった、ブシロシビンとブシロシビンだということがわかったわけですね。

糖 精神科での幻覚薬の問題が出てきた歴史ってのはいつころからですか。

松井 いま小林先生が言われたように歴史的にはずいぶん古いらしく、アシシニについて申しますと、一八四〇年にオーベル・ロツシュがベストの治療に初めて使ったと云われておるのです。それは精神科じゃありませんけれども。精神科者に対しては一八四五年モロー・ドゥ・トワールが、アシシニの治療的実験をやっています。

徳田 ゴーチエなんかが初めて実験を受けたわけでしょう。はつきりと精神病院内で行なわれた実験をして……。

糖 植草さん、文学や芸術に現われてきたのはいつころからなんですか。

植草 やはりいまおっしゃったゴーチエあたりでしょうね。

徳田 一八二〇年から二十二年三年というところではないでしょうか。

植草 ただフランスは、あのころは阿片が主でしたわ。その前にイギリスからフランスへ行っていますね。それで例のロリンズの推理小説「月長石」——ムーンストーン、あれ

ラフで行くとおじ気づいちゃうんで、少しそういうのを飲まして半分夢幻状態というか、

われを忘れてめっちゃやめちやに刀をふり回して、敵も味方も切りまくっちゃうという工作にしてから船を横付けして海賊を働いたということ。それからもう一つはさつき糖先生おっしゃったアシシニ、あれは幻覚薬として使われたかどうかは別として、ただお酒みたいに使われたという意味じゃ、有史以前からあったと思うのです。そういう意味じゃ歴史は一番古いほうになるのかも知れませんけれど、あれははつきり幻覚薬として広まったのはナポレオン遠征からあとですね。

糖 ナポレオン時代から使ったんですか。

小林 いや、ナポレオンがエジプトに遠征しまして、ご存知のような事情でフランスへよびもどされたわけですね。そのときに従軍学者に命じていろんな学問をフランスにもって帰らしたのです。そのときに持ち帰ったエジプトの学問をフランス本國で二十四巻の「エジプト記」(一八〇九年)という本にして出版したわけですが、それに出てくるのです。「エジプトの原住民がこういうものを飲んで、どうも幻覚が見えるらしい」と読んで皆がその当時エジプトに遊びに行く、観光旅行

はぜんぶ幻覚状態で書いたそうですね。ぼくは読み直そうと思っているんですがね。

徳田 あれは一八六五年ぐらいですね。

植草 コリンズの周辺のイギリスの作家はだいたいやってるわけですね。詩人が多いですが、イギリスじゃあのころそうとう作家は使っていたんです。一種の若術止めに使ったりなんかしたのが元らしいですね。

小林 アシシニは「アシシニ喚醒クラブ」というか、社交クラブみたいなのを作りました。ポードレルなんかも入っていたようですね。要するにそのモロー・ドゥ・トワールが使ったところから、ハイタラスの有名なフランスの学者が、いまでいえば阿片窟でしょう。か、そういうところに集ってアシシニを飲みあつたらしいですね。「人工薬園」かなんかには出てますですね、そのあたりが。

植草 ポードレルはゴーチエに飲んでみると言われた、ずつと年が下でしたからね。

高段な料理屋で日にちを決めて。

松井 ポードレルが住んでいたオテル・ビモダンという、大した館なんでしょうね。そこでは西家フェルナン・ポアツサールのところで「アシシニ愛用クラブ」が開かれ、ポードレルもまれにはやってきたそうですね。

が、その頃は単なる観察者として列席したにとどまり、実際に彼がアシシユを味わったのは、友人ルイ・メナールの家だったと言われている。

植草 そのころボードレールは阿片をやっていたんですか。

松井 ええ、彼は「阿片チンキ」（ロイダム）を用いたことはたしかです。しかしこれはボードレールのアルコール中毒と関係がありまして、嗜癖におち入っていたかどうかはわかりません。

榎 消れる、感傷者ですね。

松井 けれどもね、あれはアルコールを非常に飲んで、疼痛性の胃炎ですか、それがあつた。それでそれを鎮めるためには阿片チンキを使ったわけです。だから私は……それは詩の中に出てきますが、おそらく阿片の影響で、それをあの人が記憶力と想像で過去の経験を詩の中に書き込んだと思うのですが。

原 松井さんは詳しいところだけれど、あのころのモルヒネは、一種の陶酔、もちろん陶酔は幻覚の非常に多くの部分を占めるけれども、そのときにモルヒネでは全体的にすつとそうなつちまうけれども、意識もたすつとそれがカンナビノールが主成分のアシシユを

使うと一部分の意識がはっきり現れている。それが違うらうって当時の文学者だとか、あるいは消れたり魅せられた連中がモルヒネと区別していますね、モルヒネとカンナビノールとを。

松井 そうですね。モルヒネというのはよほど中毒しなければ幻覚というのは出てこな



(松井 静夫氏)

いんじゃないですか。
原 陶酔はあるんだ。それがアシシユとモルヒネではね、阿片とアシシユ、それは主成分からはモルヒネとカンナビノールと言うべきですよ。そのときにモルヒネは全体的にボカンとしてしまう。それがカンナビノールの場合には意識がはっきり現つたところがあるという。

榎 私はモルヒネ、麻薬の中毒患者と、幻覚薬を用いた人たちとはぜんぜん違うものだ

榎 もう数年前から英文でいいしよ。
榎 飲んだんですか、注射したんですか。
徳田 両方やりました。それから四回やりました。それも十三年前のことですから少し記憶も薄れてますけれども。

小林 だいぶ後遺症が残っている。(笑)

徳田 健忘症という後遺症が残ってますけれども、(笑) いずれにしてもかなりよく覚えています。第一回はどうか、第二回はどうか……。

榎 記憶に残るんですか。

徳田 ええ、うんと飲めば酔状態とか、かなり意識がおかされてしまうので、記憶に残らないといわれますけれど、実験のための道徳は、体感プロキローガンマーという程度の量です。勿論欧米人と日本人の使用量は多少ことなります。七五キロの人ですと七五ガンマーから一〇〇ガンマー程度ですと、比較的意識清明という状態で自分の体験を記憶できるというのが特徴なんです。

それで一回の体験の経過をふりかえって見ますと、いくつかの状態像にわけられるのです。たとえば不安・緊張状態とか、爽快・多動状態とか、あるいは恍惚・脱力、多幸・緊要解除、不関・鈍麻状態などいくつかにな

とめられますよ。一番初め飲んだとき、しばらくして非常にこわくなって、もう死ぬんじゃないかということ、精神病院にこのまま入ってしまうんじゃないかと思つたり、もう絶対もどらないのではないかと強い不安が起りましてね。

榎 ほう、死の恐怖がありますか。

徳田 死の恐怖とそれから絶対にもどらないという確信のような恐怖がおこるんですよ。そのあとではだんだん気持ちよくなつたり、幸福感(多幸感)があつたり陶酔感が出てきたり、それこそ天下を取つたような、あるいは宇宙を支配するような気分になつて、グッドトリップになつていくんですけども……一応何時間かたつてさめますね、さうするとあんなに不安感が強かつたんだからもう金輪際やらないぞと思つていたんですけども、もっと詳しく研究をやれなうたことを周りの精神科医からそのかされて、その後三カ月ごとに反復実験を行ないました。その度に死の恐怖が訪れるのですね。わかっているんですけどそれが同じような形で訪れて来ました。

榎 死の恐怖になるのはバッドトリップに入っているのですか。

と原ののです。麻薬の連中は中毒になつて麻薬をやらなければ普通の人間になれないんです。普通の人間になる喜びがないんです。ところが幻覚薬はぜんぜんそれとは別なんです。普通の人間にもっと余けいなものが出てくるということです。ですから根本的にそこが違うんじゃないかと私は考へるんですが。

原 言葉は少し荒いけれど一脈わかるな。
徳田 文学は先ほど松井先生、植草先生おつしやつたように、初めのころはモルヒネとか阿片とかありましたが、最近では結局LSDでしようね。それからマリファナもありましたけれども、マリファナの幻覚というものとLSDの幻覚と比べて、LSDを振動とすればマリファナは小結じやない、もつと下位のようなです。

変幻自在の世界・LSD体験

榎 そんなに速いですか。
徳田 そういった意味ではやはりLSDが筆頭じやないかと思ひます。

原 おつしやるとおり問題はLSDですよ。あなたご自分で一べん……。
徳田 どうもそれがいろいろと……。(笑)
榎 その話をお聞きしたいんですがね。

徳田 バッドトリップなんですけど、LSD体験にうまく導いてくれる人、何と云つたかな……。

小林 ええと、ガイド。

徳田 ガイド。ええ、ガイドと言うんです。ガイドがバッドトリップにならないような方向にうまく暗示をあたえたり誘導したりしてゆくのです。

榎 ガイドがいるんですか。

徳田 アメリカあたりでは。ガイドがいたほうがバッドトリップにならないです。これがめちゃくちゃになりますよ。いまの恐怖からだんだん恐慌状態になつてしまふ。そうすると幻覚のいいものまでぜんぜん出ないで恐怖と不安というものに陥つちやいますから。私はバッドトリップになりそうになつたんですけど、やはり時期を少し待つていました。だんだんとグッドトリップのほうに変つてきました。十二時間ぐらひ非常にいい幻覚の状態を続けました。幻覚といつてもしょっちゅう何か見えているわけではいいんです。けれども、ある時期では目をつぶっていると万葉集というのがありますが、それを見るときに目の中、頭の奥の中で、ぐるぐるいんな変幻自在の斬彩色の形態が見えます。

椿 それは形ですか。

徳田 それこそあらゆる形ですね。たとえばソッパン玉の形とか三角形とか人形の形だとか、あるいは上から下へ滝のように流れるような形だとか、アモーバーのような形だとか、幾何学図形ですね、そういうものがないっばい見えてきて、しかもそれが極彩色なんです。そういうのが目をばつとあけると消えてなくなっちゃうんですね。目を閉じると出る、目をあけるとなくなるんですけど、逆にこんどは眼をあけて見ているものが変形したりし始めるのです。ピンなんか少しくじやうとなつて動いたような感じがしたり、なぜ動くんだらうと考えている間に人の顔みたいなものが見えたり、感じたり……。

椿 それがサイケデリックの絵になるんですか。

植草 その場合非常に光り出すっていう……

徳田 ええ、光り出しますね。つまり天井の蛍光灯だとか電気がハレーションをおこすみないにして非常に明るくなる。しかもピンタがかってくる。大きくなったり小さくなったりする、しかも天井自体がゆれるように感じますから自分の存在がなんとなく危うくな

るような感じになつたりしますけれど、次第に時間がたちますと、よっぱらっているような感じで、どうでもなれというようになってきます。不安感というのとは違って陶酔感のほうに移ります。

椿 音はどうなんです。

徳田 音は非常に敏感になりますね。たと



(徳田 貞仁氏)

えばここにおいて原宿の駅の発車の音なんて聞こえないはずですね。それが聞こえます。

植草 それと音が一つずつ……。一つの流れの音の一つずつの音がはつきり聞こえてくるそうなんです。

徳田 ええ、一つずつの音のはつきり聞こえたり、もう一つは情景と音楽が一緒になることがあります。パツとシャンソンなんか聞こえてきますと、シャンソンと結びついたようなパリのカンカン踊りだとか、ムーランル

ージュとかいろいろがふあーと浮んでくる。

椿 それじゃ夢と同じじゃない。

徳田 ええ、夢と同じようであつたり、これを共感覚という人もいますけれど、そういうふうには何かの刺激が次の新しいイメージをよびおこすというふうなことがありますね。

原 私はかなり長いですから、はじめメスカリンから入つたんです。一般の作用の実験はいろんな動物でやりましたが、すべて猿の顔から推察しようとする分たぐさん猿を使っています。あとで話が出るでしょうが私は問題になるのはLSD、これはいまは日本に入らんことになつて、治療的にみたらいいことではない。しかしほうっておけないあの魅力というものは動物実験からも察せられますね。この猿の顔の変化(実験猿のカラ写真を提示して)だけは見といてください。猿でなければだめなんです。

徳田 この顔の変化は人間のLSDでみてもよくわかります。たとえば私が逆に観察者の立場で見たくともありますが、すごい顔つきの変化をしますね。それこそ分裂病者みたいにぼんやりしている表情から、えらくエキサイトしちゃつて、なにか魅入られるような

目付、そういうようなものを見せますね。

芸術作品への影響

椿 幻覚薬の文学的な、あるいは芸術的技



サルによるブシロレピンの幻覚の表現(原・植田実録)

術的な記載の中の個人差というもの、実験した個人差がだいぶあると思うんですが。

植草 簡単にいうとLSDはインテリに効果があつて、知能程度の低いものは効果がないうようなことを書いてありますね。

徳田 たとえばトーマス・ファンガーライダーとか、シドニー・ユーンなどLSDの研究家などは実験者はかなり道徳的にも高いものをもつていて、しかも知能程度や教養も高いインテリでないとやるべきじゃない。たとえば若い十七、八歳以下の未熟な連中がやるとうごいことになっちゃうからだめだということを初めから言つておりました。

松井 ボードレールなんかも言ってるんですね。牛飼いにアシシユなんか飲ませたら、つまらない牧場ぐらいいしか出てこない。しかし知性の高い教養のあるものがやれば、実に複雑な、美しい幻覚が出てくると言つています。

植草 実際ボードレールの「悪の華」でも、さつきおっしゃったように、むしろ阿片のときの記憶の要素が多いいんですってね。

松井 阿片とアシシユの両方でしょうね。「悪の華」の「パリの夢」なんかは、アシシユの影響といわれております。「人工楽園」

と合わせて読んでみるとどうもアシシユのほうがですね。それから「パリの夢うつ」の中の「二重の部屋」という散文詩がありますが、その「二重の部屋」では阿片の影響が大きいうです。

植草 それでちよいと思ひ出したのはボーですね。ボーはそれほどやつていない。

椿 アルコールですね。ついにアルコールで倒れたということになってますが、アルコールは使つてもほかのものは使つてないようですね、書いたものみです。そのアルコールも野村章恒先生の言われるには、そんなにひどいアルコール中毒じゃないといわれていますね。むしろあの人は天才的にああいう一つの幻覚をもつ性格をもつていたんじゃないですかね。

それで植草さん、サイケデリックな絵というものにだいぶ疑問があるといわれていましたが、それはどういふわけですか。

植草 松井先生の分野ですが、アンソニー・ミシヨーの場合は見えてわかりますね。

松井 そうですね。

植草 ただよくアメリカで出ているサイケデリックの絵というのが、どうもニセ物みたいな感じがしますね。画けないんじゃないで

すか。

徳田 ちよっと口をはさんで申しわけないですけども、いまの植草先生おっしゃるのも……。たしかにLSDをやったときには書けるものじゃないんです。それからアンリ・ミショーのおそらくああいふふうな幾何学的な線やら、それからあるいは点線やら丸書いたり、たくさんの紙模様に細かく書いたりすることは、あれはメスカリンの体験中でもできると思います。

榎 その最中におね。

徳田 ええ、そのときに。だけどいま植草先生おっしゃったように最近のアメリカのサイケデリックアートというものはマスターズとハウストンという人たちがサイケデリック・アートという本の中に詳しく書いています。あれはとにかくLSDを体験した連中があとになって自分の考えと体験を少しミックスして作りあげてるものと思われま。けれども人によってはLSDを飲んだために全体の絵の構成から表現力からぜんぶ変わっちゃったという連中がいますよ。これはLSD飲んだ体験が、ある意味ではその人の人生態度とか考え方とか表現に対する一般的な概念を変えたんだということになっているわけ

で、まああの本にのっている絵はLSDを飲んでるときにやったんじやないということ。つまり体験したあとにそれを生かして描いたということですね。

榎 一つ最近の例で思い出したのは野原の虹の作品がありますね。いままでは非常にグラフィックな感じの作品だったのが、つい最近のは人間がからみあっているようなふうになっていて、ぼくは「これはいいな」と思ったんです。そうしたらよく知ってる人が作家から聞いたのは「それはLSDだよ」と当人が言ったわけですね。

ですからそれはいままで非常にテクニクを持ってやる人ですね。それがやっぱりLSDの好体験を利用して、そういうふうにするばらしいものになったんだろうと思えますけれども、だから元があつて、それに加わつていいものができているような気がしました。野原の最近のヤツは。

松井 前に徳田先生が

ているほうで……。

それから黒人の歌にむかしから「ロイヤル」が多いんですが、それでからだか家がなつたとか、そういう歌は非常に多いですね。

榎 黒人の歌にね。藍歌ですか、それは。

榎 いや、ブルースです。ブルースに非常に多いです。それと何と申しますか、シニールリズムとどこかLSD文学、小説の中の表現に使うのと共通性があるようにも思いますが、どうも作つてくるような感じですね、読んでみますよ。

榎 まあシニールリズムとはさうとう関係がありますよ。サイケとか、サイケデリックする、サイケ装束すること、それより何と申しても一種の、人に非常に魅力がある。ああいうものに魅力をもつ人、社会情勢、社会環境、これが大きな問題だと思ふ。

社会問題になっているマリファナ

シンナーなど

小林 アメリカの現状がまさにおっしゃるとおりなんで、ドラッグ・アブユース(薬物乱用)で向こうは困っているわけなんです。たとえば、パロイズの「裸のランチ」だとかいろんなものを読みましても、あるいはさつ

式場聡先生と協力して映画をつくりましたね。——日本では初めてじゃないですか、画家の方に飲んでもらつて、初め具象的描画が

——抽象的なものに、だんだんと変化していくあの美しい映画を見せていただきました。加性のある画家の方ですね。そういう方が絵を描かれる場合を見て——私は絵画はよくわかりませんが、私も私あるとき感じました。もし天才的な素質のある芸術家が幻覚薬のようなものを用いた場合には、それが直接の影響じゃなくても記憶に残っていると

き話の出ました「アディクト・オン・ザ・ストリート」みて、もう取り締つても取り締つてもどんどんみんなが使うし、薬の新手が次から次と出てくる。法律のようなものでしるべることができない、それは魅力があるからさうなんだと思ふんですが、アメリカがさうだから日本も必ずさうなるんじゃないでしょうか。われわれの専門のことからいえば、社会精神病理学というのはどうしたって問題になるし、出てくるでしょう。いままさに、日本でも大衆の「ヘアー事件」だとかいろいろ話題になっているわけですが、ますますなるんじゃないでしょうか。

榎 あれはやっぱり原薬と同じように仲間をよぶのですか。

小林 ええ、セツティングといいまして、その場の雰囲気については、非常にグラフィックな部屋で、ムード音楽でもかけておいて仲のよい友だちも同志で飲むとグッド・トリップだし、一人きりでへんな食卓と下宿で、昼寝かなんかでぼそっと飲むとバッド・トリップになつちゃうんで、そういう意味でも仲間をよぶわけですね。

榎 きたない部屋でやると、とてもきたなくなるらしいですね。

松井 最近中学生なんかが使っているシンナーですね。あのシンナーなんかでもそう言ってますね。同じようですね。

したときの「導入期」とちよつと似ていると思うんです。大脳皮質の抑制作用がとれちゃうんで、本能みたいなものが露呈されるような感じですね。

榎 シンナーってのはどのくらい作用をもっているんですか。

松井 モーパッサンが書いてる「水の上」あれなんか幻覚が描写されていますが、あの時代は鎮静剤としてニールを使つたらしい

榎 どういう患者をごらんになるんですか。

松井 バナナの皮だとか。

松井 最初は非常にいい気持ちになるんですけどね。それでだんだん量が増えてくる。初めのうちは色彩のある幻覚が出たり、いろいろと非常に多幸性になるからいい気持ちなんだが、だんだん量が増えてきて二、三カ月もすると中毒症状がひどくなって、精神異常をおこして暴暴したり、ストーブをけとばして火災をおこしたりするんです。大勢でグループをつくってやっていますからけんかが始まりなぐり合いをやったりする。女性は一掃にかいでると実によくないそうなんです。(笑)仕末が悪く、女によつばらいみたいになる。非常にニコチクな動作がある。

徳田 シンナーも幻覚はいま松井先生おっしゃったようにきれいなのが見えたり、壁にへんなのが見えたり、動くものが見えたりとかそんなこと言ってますけど、やはり本人はシンナーを好んで用いるような嗜癖性格というか、性格の片やうりというのがある人が容易に結び付くことが多いですね。ですからそれをやめさせるということが非常にむずかしいですね。それでこれはアメリカの教科



(植草 第一氏)

小田 あれはどつちかといえは幻覚薬というよりは麻酔薬に近いんで、ニールを適下

うことです。金をだいたい流しまして、法律をいまのうちに撤廃しておこうという考えがあるようです。

植草 これはちよつと余談になりますが、このあいだのプリンスホテルに用があつて行つてみましたら、下の階段のところ「ブツツ・アンド・ドゥラッグス」って書いてあるわけですね。それでいいわけですが、やはりそこちのドラッグスのほうを想像させちゃいますね。要するにこのマリファナを吸っているのが千八百万人くらいいるわけですから、もうマリファナの法律がそろそろ変わるわけですね。

榎 サイケ芸術とサイケ芸術につながるものと、それはどんなふうに解釈したらいいんですか。

榎 どういうふうになるの。

植草 ぼくもただ読んでいるだけですけれども、さつきおつしやつたはかに自分が回りのものと一緒になつちやうということが非常に特色らしいですね。LSDはだから劇自我の境地になつていく。

榎 たばこみたいになるんですか。

小田 たばこのんでると自分がたばこになつちやつたような気分とか、そういうことですか。

榎 要するに禁制品ですね。そうじゃないかって……。

植草 そうですね。要するに回りの世界と一緒になつて、自分が支配者になつたような気持ちに……。そこが非常に気持ちがいいんですか。

榎 たばこみたいなになるんですか。

徳田 自我崩壊もあるかも知れませんが、もう一つは結局宇宙というものと合一感な

小田 少したばこ会社の陰謀もあるようなんです。つまり、たばこはガンでだめになるから、代わりの商品を仕込んでおこう、とい

んでですね。たとえば自分は宇宙を感じるのであつて、自分がなければ宇宙はない。それは現実はないわけですね。自分が死んでしまえば現実はないわけですね。つまり自分はミクロコスモスであり、もう一つ外側のはマクロコスモスだ、と。大宇宙だというふうな対立感が生まれてくる。これは私が本など読まないころにそれを感じましたね。それがあとで本を読んだらそんなこと、同じことを言っている本があるんですよ。へえと思いましたが、これが宇宙感と関係があるなと。

榎 要するに禁制品ですね。そうじゃないかって……。

徳田 先ほど小林先生が言つたように、やはり宗教にはどうしても麻薬的な要素と麻薬体験と類似の状況を作り出す何ものが必要なんです。たとえば音楽にしてもそうだと

榎 どういうふうになるの。

徳田 ムードを作つてその中に引き入

榎 どういうふうになるの。

徳田 ムードを作つてその中に引き入

榎 どういうふうになるの。

徳田 ムードを作つてその中に引き入

榎 どういうふうになるの。

徳田 ムードを作つてその中に引き入

榎 どういうふうになるの。

徳田 ムードを作つてその中に引き入

榎 どういうふうになるの。

徳田 ムードを作つてその中に引き入

榎 どういうふうになるの。

徳田 ムードを作つてその中に引き入

榎 どういうふうになるの。

徳田 ムードを作つてその中に引き入

れるようにする。一点を見つめさせる。たと
えば、これは神様におこられるかも知れない
けれど、演壇一つに光をあてて、集中させて
すばらしい音楽を聴かせる。そうすると人間
は一種の感覚遮断みたいな状態になってそこ
に集中され、しかも一つの統一されたものを
もつてくるような意味の神々しさとか美しさ
というものが人間の頭の中におこってくる。

小林 セツティングです。

徳田 そうです。セツティング。それが大
切じゃないかと……。それに成功すると宗教
もはやるし、かつてのヒトラーみたいな狂
歌者としてのセツティングが影響力をもつこ
とになるんじゃないかと考えてます。(笑)
植草 インドの坊さんなんか、このLSD
とかマリファナ、ああいったものなしでその
状況になつちやうてららしいですね。

治療薬としての問題点

原 だれもおっしやらなくてよかったけれ
ども幻覚薬飲んで幻覚を見る、ま、いい薬だ
なんていう人もいないですけど、私は一概に
すてないです。私はモデル精神病或いは模
型精神病をつくるためにこれを動物に使って
いるんですけれども、それを小林さんなんか

は必ずしも成功しないというんでしょうが。
この幻覚薬といまの若い層に結びつく社
会情勢とか、その心理が幻覚薬につながるフ
クター、これは大きな問題だと思っ
ていますね。



(原 三郎氏)

小林 いまでもそれが問題になつてると
すけど、アルコール中毒をあれてなおそうと
いうことが一つ、もう一つは精神療法に使
おうというのです。つまり患者さんにあらか
じめLSDをのませておいて、それからお説
教して、精神療法の補助に使おうと。アルコ
ールのほうはやまやかしていかどうも効き
目がないという事なんですが、精神療法の
場合はだいたいかなりいい感じにやります
ないでしょうか。つまり使われない場合より使

セックスと幻覚薬

植草 それでこれはセックスの問題とはどう
なんでしょう。
徳田 LSDは孤独になるというか、比較
的の自分自信に閉じこもるほうになるんです。
マリファナはわりに、さつきもお話に出まし

たけれどみんなで面しのみにするというよう
にみんなのムードをたしむというふうなセッ
ティングがあります。LSDは極端にいきま
すと自分だけしかないのですからセックス
の感じは頭の中で回転しますけれど相手を要
しないんですよ。

植草 相手を欲しない、必要としない。

徳田 わしろ自分の崇高な感じのほうへセ
ックスが昇華されちやうというのか……。下
品なLSD体験ではあるかも知れませんが、
でも、いいところになるとどうしてもそんなこ
とはぜんぜん感じません。ですからむしろ
悟りのほうが主であつて、それはもうぜ
んぜん自由になつてしまふ。ところがマリフ
アナは意識の浅さ深さで状況が行ったり来たり
が多いですからね。たとえば飲んでいても呼
吸から入ってきますし、呼吸の吸取から鼻に
多少加減できますから、少しモーローとして
いて楽しむというところもあるんですよ。

小林 マリファナの場合は二つありまして
一つは時間感覚がずれるんで、実際は短くて
も非常に長い時間だつたような気がするわけ
ですね。だからセックスの体験があつた場合
に、ものすごく長時間たのしんだような幻想

にとらわれることがある。もう一つはアルコ
ール飲んだときと同じで大脳皮質がやられま
すから、抑制がとれるんで、何というか、一
口でいえば略すかしのさかなくなるというか、
遠慮なんかなくなるわけですね。そういう二
つの意味で多少セックスの面に影響するよう
な傾向はLSDなんか比べるとマリファナ
のほうがあるんじゃないでしょうか。

原 猿の実験でまだ必ずしも性欲を見ると
いうことにはならないんです。推測されると
いう程度ですからね。LSDはそれがいいん
です。陰部を主とする陰部刺激のこなうて言
われているんですが、ブシロシピンなんか猿が
ペニスをおさわつたりなめたりするのが非常に
目立つんです。メスカリンにはそれがいいん
ですよ。

植草 そういふのは本に書いてないですか。

徳田 LSDとセックス、最近マリファナ
も出てきましたけれども、セックスの本があ
りまして、だいたいこのデータを出して
いくわけですね。ですからLSDは夫婦の間
の愛情がなくなつた場合、非常にいいよつて
結論が出てのがありますね。

植草 マリファナのほうはまだ読んでない

つたほうがよく効くと。まあそれはそうだし
よう。多少意識がボーッとしたりして非暗示
性が高まつてるわけですから、常識で考えて
も、よく効くんじやないでしょうか。患者さ
んにLSDなんか使いますと、徳田先生よく
ご存知だと思つてますが、ものすごく病状が
悪くなつちやうとありますね。私、アメ
リカのヒュービッチのときに見たんで
すが、一回だけLSD実験したらもう一生精
神病院から出れなくなつちやうと。これは普
通の学生で少しニューローチックな薬田があ
る人だつたすけれども、本式に発病しちや
うとあとなおらない。つまりイルレバール
(非可逆的)で分裂病発病みたいな形にな
つちやうと。だから、病気の場合には、治療
に使おうと思つたかえつて悪くしちやうと
が、いろんなむづかしい問題があるんじゃない
かと思つてます。

植草 レベルが高いんですよ。
徳田 最近「マンダラ」というのが出まし
たけれども、そういうのがあつています。
小林 マリファナの場合は、実験によると
依存性はないんですよ。その点で、日本が薬
害の中にLSDをつつ込んだのなんか間違
いでしょ。薬害ってのは依存性がある薬を指す
んですよ。

原 実際からいってそうなんです。ああいう
言葉で説明してらるんですからね。
小林 ですからLSDにしても、テトラヒ
ドラカンナビノール、つまり大麻にしても、
ほかの幻覚薬にしても、一応依存性はないん
じやないでしょうか。

徳田 LSDといふのはヒッピー族といふんで
すか、そういうのは直接関係にどういふふう
に見ますか。とても大きい問題だと思つてい
るんですけどね。



最近のLSDに関する研究・紹介書 (写真・小林明氏提供)

的なヒッピーと、パートタイム的なヒッピー(笑)そういうふうに分けて考えないといけないんです。日本なんかのヒッピーはどうもパートタイムのヒッピーが多いんですね。アメリカはかなり深く考えている連中も多くそうとうインテリジェンシーの高いヒッピーがいるようですね。ところがさつきご質問申しあげたようにドラッグカルチャーなんて問題が盛んになればなるほどそのへんの結び

つきつてはもう混沌としてさちやうののではないでしょうか。

犯罪と幻覚薬

榎 それで幻覚薬と犯罪というものは、何か関係ありませんか。

小林 犯罪といえるかどうかわかりませんが、LSD25をのみまして半狂乱になって台所の出刃包丁を振り回して人をあやめちゃったとか。それからキューブっていうんですが角砂糖にLSD25をしみ込ましたやつでもうと思つて冷蔵庫に入れておいたら四つか五つの小さい女の子がきて食べて死んじゃったとか。LSDをのんで自分は神さまになつたような気分で、向うからくる自動車を止めて見せるといつて、パツと高速道路に飛び出して手を広げて立っていたらねられて死んだとか、そういう例はアメリカにたくさんありますね。

徳田 たとえばシャロン・チート事件なんているのがありますね。ああいうのはさつきからのお話の中に出てきましたけれど、それは一種頭のヤツだけじゃありませんね。LSDもやつて、マリファナもやつて、場

合によつてはハード・ドラッグついでついでにロインもやつて、いろんなものが同一人物の体験の中にあるわけです。だからこれは小林先生がよく知っていると思うんですけど、スタップ・ストーン現象とかいつて、つぎつぎに強いものを使つていったりなんかしますね。

小林 「とび石づたい」なんですね。
徳田 一人の人間にいろいろな薬の影響が入つちやつていますからね。ほんとうにLSDだけの犯罪とかマリファナだけの犯罪というふうにならなく分けられないのでしょうか。やはりハード・ドラッグのほうはかなりシンジケートと関係があつてさうとう犯罪性はあつてと思う。ですけれどもLSDとかツフトなやつは、これはもうあらゆるものに関係はあるかも知れません。

小林 取り締まるほうも、大麻とかLSDなんか本当はそう悪いものとは思つちやいなんでいいだけだ。いま徳田先生がおっしゃった「とび石」で、はじめ大麻味うとこんどLSDを味いたくなる。それを卒業するとこんどはロインに移る。で、ロインになると犯罪になるということから、あらかじめプロックしようと思う。それで大麻を取り締まろう

ということらしいですね。ところが大麻をやつたものが必ずロインまで行くかどうかという点で論争がありますね。

榎 さつき小林先生お話しをなさつたんですが、幻覚薬を少し与えて、そしてある暗示を与えたと出ないものが出てくるというんで、犯罪を白状させる、あるいはスパイを白状させる、そういう場合に使えませんか。

徳田 まあ、「スパイ大作戦」みたいな面白い工合にはいかないと思いますがね。(笑)だが私もそのこと考えてちよつとやつた実験があります。前なんです。さうとうその人にとつて重要な、しかも深刻なざんげ話をしやべつてくれましたね、ある偉い人が。

小林 ただ非常に大事な秘密だと思つたとき、これはもしやいかんと思つたことはあまりしゃべらんのじゃないですか。エロブなしとかそんなことはおしやべりになりますから、お酒飲んだあとみたいでペラペラしゃべるでしょうけれども、結局自我崩壊とかか大脳皮質のコントロールがそこまではおそらくくずれないで残るんじゃないかと思つたんですね、セルフコントロールが、どうでしょうかね。

榎 そういふことを犯罪学の連中は何か考

えているでしょうか。

小林 これはナチスですけど。自白実験つてのがあるんです。メスカリンを使つたんですね。メスカリンをやれば敵のスパイを白状させられないか、大事な秘密をね。それでアウシュビッツの人間を使つてわざと秘密みたいなことを教えて「せつないだれにも言うな」といつておいて、向うへつれて行つて別の人がメスカリンをのませて「何か秘密を聞いたらう」と白状させようとした。しかし、だめだったらしいですね。

魂をあやつる薬・幻覚薬の未来

榎 植草さん、この幻覚薬の文字あるいは音楽の問題について、今後どんなことを想像になられてるでしょう。あるいは期待しているというか。

植草 ええと、ちよつとむずかしいですね。ちよつと想像できないことがおこるわけですから何とも言えませんね。

榎 何か新しいものが出てくるような気がしませんか。

徳田 新しい音楽・例えばジェファソン・ニアブレインとか、あんな連中がLSDやつたりなんかしていろんなサイケデリック・

ミュージックをつくつていたんでしょう。それからあとの発展はどうなんでしょう……。

植草 やつぱしイマジネーションの問題になつてくるわけですね。だから非常にびつくりするようないろいろな分野の作品、そういうものももちろん出てくるわけですね。それにLSD、幻覚薬がどのくらい関係してくるか、といったものも一部にありますね。またそれでない非常にイマジネーションが豊富な人間が出てくる場合もあるし……とにかかく最近の、この二年間ぐらいに書いたびつくりするようなものにぶつかりませんし、そういうものにぶつかりたいなと思つたんですね。

榎 期待はもつわけですね。植草さん自身としてでなくともつわけですね。

植草 ええ、私自身としてもほくはむかしやつぱりシュニールレアリズムに夢中になつてずつときておりますから、それが一番興味のあることなんです。

榎 私はね、少し薬理学的になり過ぎるかも知れないが、薬に薬が作用するときに、やはり脳の新しい部分でも、古い部分でも、新皮質でも古皮質でもその他の部分でも、薬が作用するというところは脳の持つていた機能を止めるか高めるかだと思つて、乱れておこ

ると言うことはやはり、本来の脳の各部に作用しながら機能が乱れる。というんで精神病もそれに相異なると思うから人工精神病、モデル精神病の前提みたいのを構たい。これが私の研究だったわけです。それはいろんな脳の各部を破壊したって、電撃刺激したって、細かい各部の脳波をとってそんな細かくできるんじゃないんです。私は薬によつてやるべきだと思ふ。そういう点で結局は、判定は人間を相手にする、薬理学を基礎においた仕事。そういうふうに私は考へるんですね。

小林 そうしないと結局この幻覚薬に関する限りはつきりした方法はない。

榎 小林先生はこの幻覚薬の将来について、今後、未来にどういう予想をなさっていらっしゃるんですか？

小林 おとし、ニルトリコで「二十世紀の魂」というシンボジウムがアメリカの精神薬理学会主催で行なわれました。そのときの話題に出ていたんです。いままでは肉体の薬とかアスピリンとかサルフア剤とか、ボディのほうばかりに集中していた。しかし、これからは、熱をとると同じような意味で、精神をあやつる、そういう薬が出るだろう。その中に幻覚薬が入ってくるわけな

んですけれども、たとえばきよりはくたびれたからビンタの夢をみようとか、きよりは少し深うつになりたいとか、浮かれすぎたから少し一人でしょんぼりとした気分ひたりたとかいろんなことがあると思うのです。そういうときに、かなり自由に魂をあやつれる薬が、——二十一世紀といいますが、もう



(榎 八郎氏)

ればこういう作用が出るんじゃないかという事でどんどんつくる時代が来るでしょう。いまの解熱剤、麻酔剤など、薬学で設計してどんどんやっていますね。プランニングを。ああいうふうにはできるのじゃないかと思つているのです。

榎 松井 たいへんおもしろいですね。

榎 今後そういう面はあるな。

榎 ありがとうございます。長い時間、遠くからいらしていただいたり、本当にありがとうございます。

表紙のことば

今井 知文

画題を「夢」としたかったのですが、「動物の魂」と見てもらえるかどうか自信がなかったので無難な「動物」にした。スドックホルムの百貨店で見つけた海苔の箱です。体のすべてが言語的にデフォルムされており、頭はまったくの平面で、その平面に目鼻が書き込んであります。背中の腹に苦勞しましたが、結局、子供の使う彫刻刀で引っかきました。というわけで随分屈辱な絵になりました。

(前十八日日本芸術家協会出品・東京展)

座談会

夢を考える



出席者 (敬称略)

時実利彦 (京都大学教授 生理)

塚田裕三 (慶応大学教授 生理)

星新一 (作家)

原三郎 (編集委員 雑誌)

榎八郎 (編集委員 雑誌)

司会



写真・右上より
榎三郎氏
榎八郎氏
榎三郎氏
榎八郎氏
榎三郎氏
榎八郎氏

睡眠の問題

榎 原先生、医学上に現われた。夢の研究ですね。こういうものの歴史を大体、お話ねがいたんですが……

榎 自分の研究の面から、大正の四、五年から何となしに、夢のことを読んでいます。ですが、夢の歴史というと、何と云っても日本における高橋博さん——この方が、東大の学生時代、大正六年に「夢学」という本を出している。大正十三年に再版が出ています。非常に膨大なものでして、これはまあ、大体、エリスの「ザ・ワールド・オブ・ドリーム」という本を中心にしたものです。

榎 その次に、昭和四年に大槻憲二さんが、当時の「プロイト精神分析全集」の一巻ですが「夢の注釈」と……それを訳したものです。

榎 それから、やはり、心理学者の宮城音弥さんが二〇年ぐらい前ですね、初版が出たのは、夢という。そういう方が、具体的に何かを現しているんですが、医学者の方面から、夢、と言うと、特に取り上げた人はない、いろいろな文学には出ているんですが、次に時実さんを中心とされる。パラ睡眠、

榎 ですが、あれが出た頃から、医学及び科学に

おいて、夢が取扱われてまったく新しい境地を開いた、そんなふうに考えています。

榎 外国ではどんなところですか？

時実 夢の研究は、エリスが一ばん体系的にやっているとしますね。いつ頃でしたか？

原 一九一一年ですね、明治十九年です。

時実 エリスは、夢の体験を集めて、彼なりの、純粋に科学的ではなくて、多少文学的な立場、あるいは、精神分析的な立場から夢というのを体系づけたもので、そういう意味では、夢の研究の一つのマイルストーンであることは確かですね。

もつと科学的にアプローチしようとしたのはフロイトですね。エリスは夢の現象をいろいろ体系付けたのですが、フロイトは、夢を私たち人間の心との関連において解釈しようとして試みたのです。それで、フロイトの夢の解釈というのが風靡しまして、それが、精神分析その他にいろいろ使われたんですが、その後、私たちは、もつと科学的に研究しはじめたわけですね、一九五四、五年から始まりました、いわゆる、逆説睡眠の研究です。

今までは、眠りそのものについての分析的な研究がなかったのですが、実は眠りは一種類ではなくて、二通りの眠りをしてることが

わかったのです。

普通の眠りと、もう一つの特別の眠りです。その特別の眠りを、逆説睡眠。あるいは、パラ睡眠。といい、その逆説睡眠の時に調べてみると、ほとんど大部分の人が夢を見ているのです。

そこで、現在は逆説睡眠がなぜおこるか、どういう意味合を私たち人間に持っているか、またどんな仕組みでそのときに夢というものがおこるのかといった研究が行なわれています。

さらにまた、最近では、夢見覚機とか、夢探集機とかいったような機械ができて、夢をどうと集めて、もう一度詳しく分析してみようというようになっております。

特に現在は、逆説睡眠がなぜおこるかということが非常に問題になっておまして、結局、最後は、なにか化学的な物質によつておこるのだろうと思っております。

これは塚田先生の領分になります。このへんのところは今後の一ばん大きな問題だろうと思っております。

しかし、集めた夢を、もう一度体系化のしなおしをやるということ、夢がどういう仕組みでおこるか、また何故私たちは夢を見な

二つのとらえ方があると思っております。

榎 塚田さんに現在やっておられる、夢の仕事の一つ、解り易くお話しください。

塚田 私は、夢、というようなことが、生理学の研究対象になるだろうかと思っておったんです。ところが今、時実先生のお話のようにこの十年來、時実先生の呼び方から言えば、パラ睡眠、いわゆる、逆説睡眠、というようなことが生理学的にはつきりという扱われるようになってきました。脳波を使つて、パラ睡眠、オルソ睡眠というものが分けられるようになったし、身体的にもいろいろ自律神経系の症状やあるいは運動とかある程度客観的にとらえられ研究が進んでおります。そして夢とパラ睡眠との関係がはつきりしてきた時点で、はじめて生理学の研究の対象になるようになったと思っております。

ですから、我々のように脳の物質代謝という面から、大脳生理学に取組んでいる者としては、まず、電気生理学的な脳の研究の成果が、ある程度進んだところで、それを支えている化学的な基盤が何であるかを探ると、この方向で研究を進めたいと思つているわけですね。

現在おぼろげに解つてきていることは、中

くちやいけないかということも重要な問題なんです。

原 やはり、その逆説睡眠の時から夢が非常に科学的になってきたんで、それ以前の夢については、いくら本を読んでも夢のようないかたが、夢、を立たいと言いが、高峰さんの主観がそんなにはつきりしてないんですよ。そのとき、富士川博士が、序文を書いているんですが、三つのファクターを上げているんです。で、夢は時間を超越している。それから、空間を超越して遠方万里の人たちのことでも自由に考える。三ばんは、因果の法則を超越している。そこ

にですね、これはやはり、文学的のほうがつよいんですが、夢学というのが心理学で成立しますか。時実さんはおそらく睡眠学の中に夢というのは成立するように思つてほしいが、どうですか。

時実 学問を越してどのようにとらえるかということでしょうね。私は脳の細胞の働きとの関係において、あるいは、塚田先生は脳の細胞の物質代謝の関係において、作家の方はご自分の体験とか、あるいは、すばらしい想像の世界においてとらえるとか、そういう

脳あるいは、ボンス(橋)あたりの特殊な神経核から特殊な物質が出てきて、それが、オルソ睡眠、あるいはパラ睡眠を引き起すというようなことが言われるようになってきております。そのものがどんな物質か——ということについては、いろんな議論があります。例えば、醣酸誘導体などはパラ睡眠をおこす物質であろうと考えられておりますけれども確定されたわけではありません。

ですから、我々としては脳波によるパラ睡眠をたよりにして、これを起こしてくる物質を確定しなければならぬわけですね。

一方夢については、これを起こしてくる神経機構が、大脳なのか、間脳なのか、中脳なのか、そのへんの問題を時実先生のほうでもう少し解いていただかないと、夢については我々のほうの研究テーマにはなり難いように思っております。

夢の問題はやはり、睡眠の研究と切つても切れない関係にあるんじゃないかと……。

榎 睡眠を起こす物質はわかっているんでしょうか？

塚田 いろんなものが実験的にはあげられています。しかしほんとうに自然の睡眠を起す物質というのはまだ解らない。どうでしょ

う、時実先生、例の醣酸の問題、それにアドレナリン、セロトニン、そういうものが浮かんでいられるわけですね。セロトニン——なんというの最近だいたいいろいろの面で騒がれておりますけれども、脳の中では、精神活動に非常に密接な関係を持ったアミンだと言えます。

それが、ある特別の神経核、例えば、ライフェという所からセロトニンが出ると、オルソ睡眠が起つてくると言われています。またボンスにあるアドレナリン作動性神経細胞が働くと、パラ睡眠が起こると……。

あるいは、ガンマー、オキシ、酪酸といった物質を動物の静脈内に注射してやると、オルソ睡眠が起こつてくるのが実験的に認められております。この醣酸誘導体は非常に興味のある物質で、けれども、実験的にパラ睡眠を起こす程の量が生理的にもオルソ睡眠の時機にはたしてできるものかどうか——そのへんは、我々まだ納得いかない点があるわけですね。

時実 私もまだ、眠り、と、眼ざめ、は現象としては解つていますが、その仕組みははつきりしておりません。結局は、これも化学的な物質代謝の問題だと思つてます。塚田先

生がずつとやつていらつしやるのは、脳の活動には、いろいろな物質代謝が必要だということでしょう。すると、その物質代謝が低下すれば、これは眠りが起こつていいんでしようか。それとも、なにかほかの物質ができないと、眠りというものは起こらないのではな

いでしょうか。
塚田 そのへんは先生、眠りの状態というものに、起きてるときに比べて物質代謝が低くなつていっている——ということでは、理解できないと思うんですね。やっぱり、先生がおっしゃつたように、別の物質代謝が盛んに営まれていると見なすべきだと思います。むしろですね、起きてるときに消費されたものが、眠りの間に合成されてためこまれると……。この場合、物を合成するためには、やはり、エネルギーが必要ですから、眠っている間にも、神経細胞は、物質代謝を営んでるとエネルギーを使つているんだというふう

夢発見機

原 今一ばん新しい問題の大熊塚さんの夢発見機、というんですか、あるいは、夢採集機、というんですか、脳波などを見ながら

るものか、それともやはり、さらに詳しいものを見るのか、夢は夢でもって、ぜんぜん人格とは別のものか、どうなんでしょう。

時実 今、いろいろ調べられているのは、精神分裂病とか、躁鬱病のような精神病患者の脳波睡眠の起こり方がどう違うかということ

です。また、精神病の薬を与えたらどうなるか、ということも調べられています。

例えば、お酒を飲みますとパラ睡眠が少なくなるんですよ。逆にある薬を飲むと、パラ睡眠が多くなります。

そうすると、そのときにどんな夢を見ているのか、というのが、現在、大熊教授がやつてらつしやるものですね。まだ結論は出ておりませんが、必ずしも躁鬱病の方が、非常に異常的な夢を見るという結果はまだ出ておりません。

分霊の方は多少、面談的な考えがございまして、そういうものが夢に出たりしますが、それは、これから夢がどんどん採集されてからはつきりすることだと思えます。

原 夢の採集については方法の中で急速眼球運動、あるいは、ラッピッド・アイ・ムーブメントですか、REMですか、反応で

ら夢を押えていくという……そのところを一つご説明ください。

時実 今までのいろいろな方の研究では、眠っている間に数回パラ睡眠の時期がある。眠ってから大体一時間半して、第一のパラ睡眠が起こります。その時間が一分から二分。そして普通の睡眠であるオルソ睡眠になる。それからまた、一時間半か二時間かして、第二のパラ睡眠が起こり、その時間が一分から二分ぐらいといった具合に、大体、毎日数回繰返して、朝方自然に眠さめる時は、パラ睡眠の時なんです。朝おきて思ひ出す夢は、最後のパラ睡眠のときの夢なんです。

星 原則として、前のヤツはみんな忘れちゃつてるんですか。

時実 忘れちゃつてる。ただ、ひままでに思い出さうと思ひだせるんです。女の方が夢をよく見るといいますが、パラ睡眠のおこり方は男と同じです。よく見るといのはひまだから……。旦那さんを送り出して、何もすることないから、それで夢を思い出すんです。

初夢の、一富士、二鷹、三なすが、のよう

か、ああいうものを中心として、ほかの二、三のファクターがあるんでしようが、それが、夢を採集するとか把握するのに、そんなに容易に承認できるんですか。

時実 夢の内容は解りませんが、夢を見ている時期であるパラ睡眠がおこっている時期は、目玉の動きではつきりつかめます。それから、脳波の波の形が違うので、すぐわかるんです。

原 それがよく、夢だということが言えるんですか。

時実 本人をそのときにおこしてきてみると、そんな夢を見たと言つてテープレコーダーに吹き込むんです。見なければ何も言わないんです。そうしますと、大体、パラ睡眠のときに八〇%ぐらいは夢をみたというんです。

しかし、普通の眠りのときに起こして夢を見ていたと言つても、案外、そのときに見ていたのか、前のパラ睡眠のとき見たのをそのときに思い出したのかわからないんです。

夢は遺伝するか

星 人類の発生と同時に夢は起こっているわけでしょうか。

楽しい家庭の団らんというのをやりまして、それから眠つて、第一のパラ睡眠のときに起こすと、その時は非常にたのしい夢になつて出てくるわけです。ところが、五回め六回めになりますと、何日か前のけんかしたことが印象が強く、朝思ひ出すのは、最後の夢しか思ひ出さないですね。夜中に途中で起きるのは、非常に強烈な夢ですね、そういうのはそのために目ざめ、そして夢を思い出すんです。非常に楽しい夢なんかは、案外、眠さめないですね。

大熊教授がやつてらつしやるのは、パラ睡眠のときには脳波の波の形が違うわけですから、それによって、パラ睡眠がおこっていることがわかり、プザーが鳴る、目ざめて、そのときに思ひだした夢をテープレコーダーに吹き込むのです。

ですから、全部のパラ睡眠のときの夢が採集できるわけです。それを集めてみると、いろいろなることが解る。しかし、結局、今までエリスが調べたことと、そう大きな違いがないんです。

星 気遣いが、どういう夢を見るのか、といつてもいろいろあるでしょうけれども、一種の精神異常の人は、案外、まともな夢を見

時実 人類だけではなくのんです。動物も夢見ると言えます。例えば、グロートンの動物記を見ますと、狐犬が尻尾を振るんです、パラ睡眠のときに……。いま尻を叩いてる夢をみているというのです。聞けないから本当のことはわからないけれども、誰は夢を見ているのだろうという実験がございまして。スクリーンに、ある視覚的なイメージをうつし出します。するとレバーを押すように条件付けるんです。今度は猫に目かくしをする

と、すぐ眠り、そして大体一時間おきにパラ睡眠がおこつてくるのです。すると、パラ睡眠のときにレバーを押す。このときに何かある視覚的なパターンが出てくるんじゃないかというわけです。

原 私も非常に賛成です。しかし、猫が夢を見ていられる——と言ひ切れないんで……。こちらが推察するんですけれども。

星 原始人なんかもそうとう、やはり、夢見たんでしょうね。どう考えていたんでしようね。奇妙な現象と意識しないで、こういうものだと思つていたんですか、その発生に、

時実 しかし、原始人より子供が夢をどう考えるか。もし、小説なんかお書きになる場合に、子供が夢を見たとき、どういふふう

表現されますか。

星 僕らの書いているのは、これは想像ですからぜんぜん根拠はありませんが、要するに、人類発生前の状態を見てるんじゃないか——という書き方をします。生まれてからの体験はないですね。おそらく、人類発生前の恐竜その他の……。

樽 動物に追われる夢は、人間はだれでも見るんです。たいがいの人が追われてこわい夢を見るんですね、それで、夢でヤレヤレ——と……。

それから飛行の夢があるでしょう。飛ぶ——あれも、人類共通に見る夢です。けれども、実際に飛行なんかしない時代でも、飛ぶ夢を見たり、それでまあ、昔の人は、かつて地上で人類が生活していたときの記憶がよみがえったから……という解釈をするようですが、そうすると、脳というヤツは、その昔の人間の経験したことを覚えてるんですかね。

時実 そうすると、一ばんもとをたどると、人間は海の中で生活していた。すると、海の中で泳いでいる夢を見るかどうか。

樽 そういう共通の夢が、人間にあるということは、何らか根拠がなきゃあウソだと思わんですよ。そうすると、昔の原始人時代の

経験が遺伝されて残っていると。そういうものが脳髓の中の細胞に遺伝されて残っている——ということになるんだね。

星 今のお話の物質の形で残ってれば。

塚田 インプリンティングという現象がございませぬ。これは生まれつきもっている行動で、例えば、鳥だったら、覗きたいな恰好したヤツの後をついて歩く、あるいは、すぐに乳を吸う、ということを神経細胞はちゃんと知っています。

これは広義の遺伝なんでしようね。しかし夢が遺伝の形で残っているか——ということになるのもよつと……。

樽 そうすると、こういうことが成立つんです。夢の中でかつて経験したこともない夢を見ることもあるんです。そういう夢は、親の代、あるいはその前、またその前のだれかが経験したヤツが残っていて、それがよつとと現われるという考え方はどうですか、星さん。

星 小説の夢は、またこれは別ですからね。うまい具合にごまかしちゃうために使う場合が多いでしょう。

この間、お正月のテレビを見ていたら、手塚治虫さんが出てきて催眠術にかかったんです

ようど高いビルディングの基礎工事みたいになつてしまふのです。外からは見えないが、バラバラになる、ここがむきだしになつてそれが夢になるといふわけですね。

夜の夢 星の夢

原 夢の中で歌なんかを苦しんで作って、ちやんと原稿の文字まで現われたりして、それが限ざめと思ひ出せないんです。

樽 だけれども、夢で作った歌だとか俳句というのは、これはいいな／＼と思つても、まだだめなんだ、まるで……。

時実 作れますか。

樽 ありますね。これはいいやつを作つたな、と思つて、大急ぎで書きとめておくでしょう。朝になつてみると、くだらないこと、お話にならない。

原 いや、原稿がちやんと字に現われてね、訂正したのまで、朝まで覚えておくこともありますね、きわめてまれだけれども。

時実 作品をお書きになる場合に、アイデアなんというものは、歩きながらとか、すぐ考へてやろうと思つてひねり出すか、あるいは、なんか夢の中にヒントを……。

星 僕の場合には、机に向つて一つだけ考

えてやる以外にないですね。夢だの、ひらめきを待っていたんでは諦切が待っていませんし、夢や、ひらめきはいつ出てくるかわからないし、これはもうだめですよ。(笑)

時実 諦切のない、ほんとうに楽しいもの

なんか書いてみたいというように、なんか、夢の中にそのアイデアが浮ぶ、というふうなことはありませんか。

星 やはり、いろいろと苦心さんたん考えぬいていいアイデアが出なくて、今日は日が悪いからとだめだ／＼というんで止めて、風呂に入つて酒飲んで寝ようとして入つて、気が案になると案外、そういうときに一ばんいいアイデアが出ますね。

樽 星さんなんかは、しょつ中、原稿に追われてるから、その、ゆっくりして考え出す——というひまがないんですね。

時実 じゃあ、追われているという夢ぐら

ね。五歳かなんかに戻つて下手な絵を描いて……、どういふわけか、催眠術というのは、限ざめるときに今までのことはすべて忘れて限ざめると言ひますね。限ざめるときに、今までのことは全部覚えてたまま限ざめさせるというところは、できないですかね。これは、実験はできるでしょう。一回ぐらいやつてみたらどうかと……。みんなすべて忘れて限ざめます——と催眠術をかけた人が言つて、ボンと叩かれて限がさめた手塚さんは何も覚えていないんですね。

樽 それは限ざめると、もうすでにそのときの状態はもう高等になつていて、限ざめたときは忘れていて——というよりも、解釈がみんな現在の頭の機能の解釈になつちやう。

星 五歳のときの限に戻つちやうと言われ、テゾカ、なんて下手くそな字で書いてるんですね。ちやんと書いてるんだから、その記憶を残したまま限ざめさせたら、五歳の限を全部覚えてるんじゃないでしょうか。

時実 私たちは生まれたときからいろいろなことを体験しておりますし、いろいろな反射運動が備わつていまして、いろいろな反射のために進むにつれて都合の悪い反射や、

か。先生のほうから聞かば……。

樽 星の夢というのは、ちやんと起きてる

ときの夢ですか。

塚田 ええ、起きてるときに考え出してくる夢です。星さんのように創作活動をなさるときには高度の神経活動が要求されているもの、そういうものは、やはり、前頭葉が働いている夢なんでしょうね。

時実 私たちは生れたときからいろいろの、夜見る夢ではないというものは、目覚めているときは大分ちやうはすですね。

塚田 そうですね。だから寝ている間に立派なものが書けたり、立派な歌ができたりはしないというところは、脳の機能水準が落ちてるんですね、寝ている間の夢では駄目なん

でしょうね。

時実 私も夢には二つあると思つてます。一つは夜見る、いわゆるバラ睡眠のときに見る夢と、もう一つは昼間見る夢なんです。ですから、夢多き人生——というのは、その、夜見る夢ではなくて、いわゆる、希望を、願いを持つ、なにか想像をたくましくしたのが全部夢だと思つてます。動物にはそういうことがないと思つてます。筆の立つ星さ

んとか椿先生、原先生はそれを小説や歌に託されるが、私たちは、それを託せないから、仕方がないから、それを科学的にやるほか方法がない——というわけなんです。

星 アメリカの子供が、夢って何か——と聞かれて、寝ているときに見るテレビだ——なんて答えたそうだけれども、そういう考え方もあるんですね。

時実 子供がいつ、これが夢だと感ずるか。子供がこんなことがあったと言ったら、それは夢だと大人が教えるのでしょうかね。

星 ある程度、言葉ができないうちはだめでしょうね。

時実 三、四歳ぐらいでしょうね。二歳ぐらいでも、夜中に泣いたりすることがありますね。あれは、脅えたりするんでしょうか。なんか、追っかけられた夢とか、母親から見捨てられた夢とか、そんなの見てるんでしょうね。

塚田 子供はパラ睡眠が多いんですか。

時実 多いんです。生まれて一年ぐらいの間は、眠っている時間の半分は、パラ睡眠です。十四時間ぐらい眠っておりますね。すると、七時間ぐらい夢を見ている勘定になりますね。大人の睡眠時間を八時間とすると、一

視しているでしょう。その理由は、時実さん、どういうふうに思いますか。

時実 さきに申しましたように、逆説睡眠、パラ睡眠というのが、それが夢をみているときに対応していることがわかった。そういう点では、フロイトは異常な脳の眠りの状態というのをつかまえたという点では偉いと思います。

パラ睡眠について現在わかっていること、具体的な関係というのは、彼は見ていませんけれども、今から考えますと、体験的には非常に重要な点を彼はつかんだのではないかと思えます。ただ、それを精神分析のほうで関係付けているのは多少無理があるような所もありません。

星 セツクスと夢との関係は、そう、今ではないという……。

時実 パラ睡眠のときに、非常に面白い現象があります。女性ではまだよく解ってないですけれども、男性では、ベニスエレクトションが起こるんです。

朝方、いわゆる、モーニングエレクトション、というのは、ちやうどパラ睡眠のときにおきてるんです。もし、朝、エレクトションのないときは、それはパラ睡眠でないときに目

時間半は、パラ睡眠ですね。

椿 星さんね、見た夢は小説の材料になりますか。

星 これはなりませんね。一時、枕もとにメモを置きまして、眠ざめた時に書いてはみたんですけれども、さつきおっしゃいましたように、あんまり役に立ちませんね。

原 文学作品に出た夢というのは、夢の概念をとらえて、夢を利用するという、夢の現象そのものを利用するというのは、非常に少ないのです。むしろ、夢の本を多少読んでみましても、結局、夢みたいなものですね、結論的に言えば。(笑声)

星 今の世の中は、科学が非常に発達してきて、昔は地球上にいろいろな神秘的な地帯というものがあったんですね。奥地とか、海底とか、月とか、都会の中になつて神社とかお寺とか、いろいろあったんですね。

なんか、イマジネーションを呼び起こすようなものが……。シークレットゾーンみたいなものがあつたわけです。それがだんだんなくなつちやつて、もうやはり、夢以外にそういうところがなくなるから、ますます作品がそこに追い込まれてしまう環境があると思うんです。昔は、月を舞台にすれば、いろいろな怪物

ざめるからです。赤ちゃんなんか、おかあさんが抱いていて、赤ん坊はしょつ中眠り、パラ睡眠がおこりますからしょつ中ベニスエレクトションを起こします。すると、おかあさんは、これはなんてニッチな赤ん坊だというわけですけれども、別にニッチでもなんでもなくて、そのベニスエレクトションというのは、セクシアルな夢とぜんぜん関係ないんです。非常に面白い現象ですね。

それともう一つは、朝、私は大体七時に最後の夢を見ます。そのときに自然に起きると、非常に頭がはつきりしている、ねざめがいいのです。ところが、今日はちよつとヒマがあるからもう少し寝ようと思つて、一夜入して三〇分程して電話がかかつてきて起こされると、これはとても、とても眠くてしょうがない。三〇分多く眠っているのに眠いんです。もう一時間半程眠らしてくれば次のパラ睡眠になるからおこされても眠くないのです。

原 そこが非常に僕は面白いなあ。

時実 夜間に往診の電話がかかってくる、あるときには、非常に気持ちよく起きられて文句言わないときもあるし、また、今頃なんでノと思うときもある。それはちやうど、

なんか出せましたよ。宇宙人とか……。

月も火星もこうなつちやうと、なんか、舞台設定の場所としてはふさわしくないし……。

アイディアというやつは、要するに異質のものを結びつけるときに、いろんな常識がそれを邪魔しているのだが、それを如何に結びつけるか——ですけれども。

時実 その常識というのは、私たちのいう、いわゆる合理性でしょうか。

星 そうでなくて、やはりずいぶんいろいろな見落しているものがあるんじゃないでしょうか。

椿 だから、そういうものを結び付けたときには、子供にかえらなければだめなんだらう。

星 その睡眠は、子供にかえらなくちゃならないですけれども、やはり、結びつけるいろんな要素、そういうものは範囲が少ないです。大人だと、いっぱい、いろんな知識がありますから、そこ的一种のコツみたいなものではないでしょうか、アイディアというものは。

パラ睡眠の現象

原 フロイトが心理学の中に非常に夢を重

パラ睡眠のときにあつているかどうかによつていのです。作家の方なんかは原稿を追われているときは、夜中のパラ睡眠のときに起こしてもらえばいいんです。そうすると、コーヒー飲まなくても、すぐペンが取れるんです。そのときには、ベニスエレクトションがちやんとできています。準備万端急りなしというところです。ちよつと、話が落ちましたが……。

星 よく子供の漫画では、おねしょするときはその夢を見ると……。

椿 ああいう排遺物の夢は、大概、できないような環境が現われるのですよ。人が見ていたり……。

星 願望の現われでしょう。

椿 そういうときには絶対にはいりません。だけれども、受ける刺激はあるんで、尿意をもよおしたとかいう刺激はありますけれども、これを抑えるというのが一つの形になつて、人が見ていたり、あるいは、便所が空になつていたり、そういうふうなできない条件が出てくるんです。

星 夢の解明というのは、前述進退ですね。

夢のある人生を

時実 夢に遊ぶといえますね。ほんとうに拘束されない状態ですね、やっぱり、先程塚田先生おっしゃったように、人間は夜の夢よりは、昼見る夢がなくてはいけない。そのほうが大切なんじゃないかと思えます。

人間に、この夢がなければ、仕事もできなければ、歌も詠めないし、小説も書けない。これはおそらく、人間だけの持つている一ばんの特徴ではないでしょうか。

動物には、昼の夢がないんです。その夢を、このアイデアをどう結び付けるか——というところに、夢というのは、非合理的なものですから、その結びつきというものが、この常識を超えたもので、そこがやはり創作活動というものだろうと思えますね。

そういう点で、私たちは、昼の夢は遊ぶどころか、苦しんでるんじゃないでしょうか。星 夜の夢でも、あんまり遊んでる、というのではないですね。

時実 しかし、拘束されていないでしょうね。あとから、苦しかったとか何とかいって、見ているときより、あとから苦しかったと言っている。星の夢はどうですか。創作活動なんかでは楽しいけれども、しかし、苦しきというものがあるでしょうね。私たち

は実験を楽しんでいると言いますけれども、実は苦しいですね。

星 原稿書いている日はいつも慢性下痢気味ですね。外国旅行で、原稿を書かなくてもいい状態になると、そういうことはぜんぜん起らないですね。

時実 おそらく、原稿をお書きになったあと、その喜びが全部の苦しさを忘れさせてくれるんですね。夢のほうは、あとから苦しさを覚えてきますね。どうも逆ではないかと思えますね。

星 なるほど、そうですね。

榎 これは俗説だけれども、夢占い。とか。夢枕に立つ。とか。逆夢。だとか。まさか。だとかいうようなことを言うんですが、昔からそういうものがどれだけの意味があるか——ということですね。

星 一回見ましたよ。悪いほうではなくていいほうなんですけれども。戦争中、弟が海軍機関学校に行ってたんです。舞鶴に行ってたんですよ。終戦になって、死にはしないということはわかっていても、いつ帰ってくるか——ということがわからなかったんです。それで、ある朝、弟の夢を見ましたね。その夢が、いわゆる、夢、じゃなくて、ほんとうの

うの。ぜんぜんこれは違う。という夢でした。何だか、いわゆる夢とは違う……。

榎 これは違う——というのはどういうことなんですか？

星 僕は、そのときに限って、これは本物だ／と思つて、きょう帰って来る、ということと言つたんです。家族はみな、不思議がついてたけれども、その晩帰ってきたんです。あのときは、ほんとうに夢とは違つた、一種鮮明な感じもするし、これは違う／という……。

榎 塚田さん、そういうものは何か、科学的に解明できるんですか。

塚田 いやいや……。

榎 何か、脳波みたいなのを作るんじゃないですか。

塚田 電波が出てくる？

星 あるいは、戦争中は食糧が不足してたから、そういうときは頭が研げるんですね。

やはり、暖衣飽食しちゃうと、そういう一種の超能力——そういうものがうすまるいっぽうではないでしょうか。(笑)

榎 まあ、夢はこのへんで……。ありがとうございました。以上

昭和四十七年一月二十六日 於原宿南園酒家